

埼玉医科大学・前期

試験日 2023年1月31日 時間 50分 数学I 数学II 数学III 数学A 数学B (数列, ベクトル)

1 (1) a, b, p を正の整数とし, $f(x) = ax^2 - px + b$ とする. $y = f(x)$ のグラフが2点 $(3, 11), (-3, 35)$ を通るとき, $p = \square$ である. そのときに, $-1 \leq x \leq 2$ における $f(x)$ の最大値が11, 最小値が3であるなら, $a = \square, b = \square$ である.

(2) 平面上の $\triangle ABC$ において辺 AB を $m:n$ に外分する点を P , 辺 BC を $2:5$ に内分する点を Q , 辺 AC を $3:1$ に内分する点を R とする. 3点 P, Q, R が一直線上にあるとき, $\frac{m}{n} = \frac{\square}{\square}$ であり, $\frac{PR}{PQ} = \frac{\square}{\square}$ である.

2 $I = \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \log \left(\frac{\cos x}{\sin x} + 1 \right) dx$ とする.

(1) 定積分 $\int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \log \left\{ \sin \left(x + \frac{\pi}{4} \right) \right\} dx$ において, 変数 x を $x + \frac{\pi}{4} = \pi - \theta$ により θ を置き換え, 再び θ を x と書き換えることで

$$\int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \log \left\{ \sin \left(x + \frac{\pi}{4} \right) \right\} dx = \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \log \left(\square \right) dx$$

と変形できる.

\square に入る最も適切なものを, 次の①~⑧のうちから1つ選べ.

- ① x^2 ② \sqrt{x} ③ e^x ④ $\sin x$
 ⑤ $\cos x$ ⑥ $\tan x$ ⑦ $\frac{1}{x}$ ⑧ $\cos 2x$

(2) 任意の実数 x に対して, $\sin x + \cos x = \sqrt{\square} \sin \left(x + \frac{\pi}{\square} \right)$ が成り立つ.

(3) $I = \frac{\pi}{\square} \log \square$ である.

3 図1のような, 座標平面上の長方形の領域 $D = \left\{ (x, y) \mid 0 \leq x \leq d, 0 \leq y \leq n + \frac{1}{2} - d \right\}$ を考える. ただし, n は定数で, 2以上の自然数である. また, d は $1 \leq d \leq n$ の実数値をとる変数である. x 座標, y 座標ともに自然数である点(図1の黒丸)の中で D に含まれるものの個数は, d とともに変化するので, これを d の関数とみなして $m(d)$ と表す.

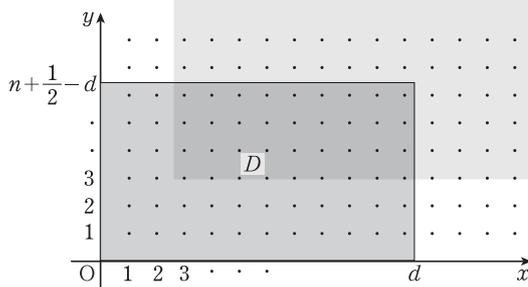


図1: 黒丸は x 座標, y 座標がともに自然数である点を表す.

(1) $m(1) = \square$, $m\left(\frac{3}{2}\right) = \square$, $m(2) = \square$ である. また, $\lim_{d \rightarrow \frac{3}{2}+0} m(d) = \lim_{d \rightarrow 2-0} m(d) = \square$ である.

$\square \sim \square$ に入る最も適切なものを, 次の①~⑧のうちからそれぞれ1つずつ選べ. 同じものを繰り返し選

2 埼玉医科大学・前期

んでもよい.

- ① $n-2$ ② $n-1$ ③ n ④ $n+1$
 ⑤ $2n-4$ ⑥ $2n-2$ ⑦ $2n$ ⑧ $2n+2$
 (2) k を $n-1$ 以下の自然数とする. $k \leq d \leq k + \frac{1}{2}$ のとき, $m(d) = \boxed{\text{オ}}$ である.

また, $k + \frac{1}{2} < d < k+1$ のとき, $m(d) = \boxed{\text{カ}}$ である.

オ, **カ** に入る最も適切なものを, 次の ①~⑧ のうちからそれぞれ1つずつ選べ. 同じものを繰り返し選んでもよい.

- ① $n-k$ ② $nk-1$ ③ $nk-2k$ ④ $nk-k^2$
 ⑤ nk ⑥ $2nk-k^2$ ⑦ $2nk-2k$ ⑧ $nk-k^2-k$
 (3) $n=17$ のとき, $m(d)$ の最大値は \square である.

4 4枚のコインを同時に投げ, 表が出たコインの枚数を数えることを4回繰り返した.

- (1) 4回のすべてで表が出るコインの枚数が2以上になる確率は $\left(\frac{\square}{\square}\right)^4$ である.
 (2) 4回の中で表が出るコインの枚数の最小値が2である確率は $\frac{\square}{\square}$ である.
 (3) 4回の中で表が出るコインの枚数の最小値が2, かつ最大値が4である確率は $\frac{\square}{\square}$ である.

1 (1) **数学I** 【2次関数】 **標準**

▶解答▶ $f(3) = 11, f(-3) = 35$ より
 $11 = 9a - 3p + b$ ①
 $35 = 9a + 3p + b$ ②

①-②より, $-24 = -6p$ であり, $p = 4$
 これを①に代入して, $b = 23 - 9a$ となり,

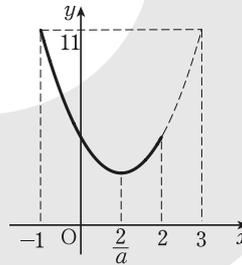
$$f(x) = ax^2 - 4x + 23 - 9a$$

$$= a\left(x - \frac{2}{a}\right)^2 - \frac{4}{a} + 23 - 9a$$

となる. a は正の整数であるから $0 < \frac{2}{a} \leq 2$ である.
 $x = \frac{2}{a}$ は $-1 \leq x \leq 2$ を満たすから最小値は $f\left(\frac{2}{a}\right)$ である. $-\frac{4}{a} + 23 - 9a = 3$ であり, $9a^2 - 20a + 4 = 0$ となる. $(9a-2)(a-2) = 0$ となり, 正の整数 $a = 2$ である. $b = 23 - 9a = 5$ となり, a, b, p は確かにすべて正の整数になる. $f(x) = 2x^2 - 4x + 5$ となる. $f(-1) = 11 > f(2) = 5$ であるから, 最大値の条件も成り立つ.

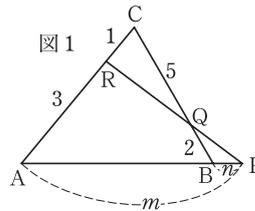
注意 ①, ②を「文字が a, b, p の3つあり, 式が2つあるから, 2つを他で表す」と読む. p は決定するが「 p, b を a で表した」結果が $p = 4, b = 23 - 9a$ である. 最大値が11という条件は使わない. 「使わなくても答えが確定する条件」を過剰条件という. 最小値のことしか書かないと方針が定まり過ぎるから, 方針を

定めにくくするために書いたのだろう. 実は「 a, b, p を正の整数」だから $b = 23 - 9a > 0$ で $a = 1$ または 2 と絞られる. ここまでくると過剰条件過ぎて, 残念な問題になり下がってしまう.



(2) **数学A** 【メネラウスの定理・チェバの定理】 **基本**

▶解答▶ AB を水平に描く. もし $\frac{CR}{RA} = \frac{CQ}{QB}$ なら RQ と AB が平行になる. 今は $\frac{CR}{RA} < \frac{CQ}{QB}$ だから R が上のほうに持ち上がっている感じで, 直線 RQ は Q 方向への延長上で, 直線 AB と交わる.



△ABC と直線 PR についてメネラウスの定理を用いて

$$\frac{AP}{PB} \cdot \frac{BQ}{QC} \cdot \frac{CR}{RA} = 1$$

$$\frac{m}{n} \cdot \frac{2}{5} \cdot \frac{1}{3} = 1 \quad \therefore \frac{m}{n} = \frac{15}{2}$$

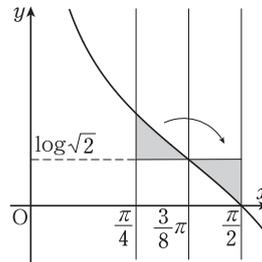
△APR と直線 BC についてメネラウスの定理を用いて

$$\frac{AB}{BP} \cdot \frac{PQ}{QR} \cdot \frac{RC}{CA} = 1$$

$$\frac{13}{2} \cdot \frac{PQ}{QR} \cdot \frac{1}{4} = 1 \quad \therefore \frac{QR}{PQ} = \frac{13}{8}$$

$$\frac{PR}{PQ} = \frac{8+13}{8} = \frac{21}{8}$$

$y = \log \sqrt{2}$ とで囲まれた部分の面積をクルッと回転させ、はめ込むことで、長方形の面積で計算できるということである。



2 **数学Ⅲ**【定積分】 **標準**

▶解答◀ (1) $x + \frac{\pi}{4} = \pi - \theta$ とおく。
 $dx = -d\theta$

x	$\frac{\pi}{4} \rightarrow \frac{\pi}{2}$
θ	$\frac{\pi}{2} \rightarrow \frac{\pi}{4}$

$$\begin{aligned} & \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \log \left\{ \sin \left(x + \frac{\pi}{4} \right) \right\} dx \\ &= \int_{\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{4}} \log \{ \sin(\pi - \theta) \} (-d\theta) \\ &= \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \log(\sin \theta) d\theta = \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \log(\sin x) dx \end{aligned}$$

(2) $\sin x + \cos x = \sqrt{2} \sin \left(x + \frac{\pi}{4} \right)$

(3) $I = \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \log \frac{\cos x + \sin x}{\sin x} dx$

$$\begin{aligned} &= \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \{ \log(\sin x + \cos x) - \log(\sin x) \} dx \\ &= \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \left\{ \log \left\{ \sqrt{2} \sin \left(x + \frac{\pi}{4} \right) \right\} - \log(\sin x) \right\} dx \\ &= \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \log \sqrt{2} dx + \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \log \left\{ \sin \left(x + \frac{\pi}{4} \right) \right\} dx \\ &\quad - \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \log(\sin x) dx \\ &= \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \frac{1}{2} \log 2 dx = \frac{1}{2} \log 2 \left[x \right]_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{2}} \\ &= \frac{1}{2} \log 2 \left(\frac{\pi}{2} - \frac{\pi}{4} \right) = \frac{\pi}{8} \log 2 \end{aligned}$$

注意 【置換積分の図形的意味】

$x + \frac{\pi}{4} = \pi - \theta$ という置換により、積分区間の真ん中である $x = \frac{3}{8}\pi$ での対称性を活かして積分を考えている。

$f(x) = \log \left(\frac{\cos x}{\sin x} + 1 \right)$ は $\left(\frac{3}{8}\pi, \log \sqrt{2} \right)$ で点対称になっている。下図を見よ。 $x = \frac{\pi}{4}, y = f(x)$,

3 **数学B**【数列の雑題】 **標準**

▶解答◀ (1) $d = 1$ のとき
 $0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq (n-1) + \frac{1}{2}$ をみたす自然数の組 (x, y) の個数は

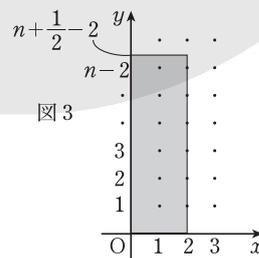
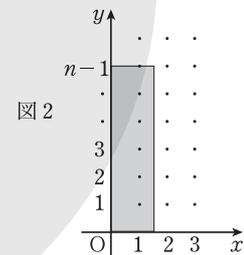
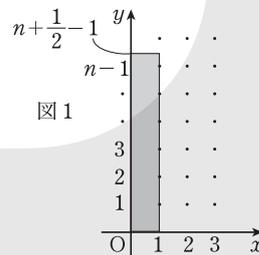
$$m(1) = 1(n-1) = n-1 \quad (2)$$

$d = \frac{3}{2}$ のとき $0 \leq x \leq 1 + \frac{1}{2}, 0 \leq y \leq n-1$ をみたす自然数の組 (x, y) の個数は

$$m\left(\frac{3}{2}\right) = 1(n-1) = n-1 \quad (2)$$

$d = 2$ のとき $0 \leq x \leq 2, 0 \leq y \leq (n-2) + \frac{1}{2}$ をみたす自然数の組 (x, y) の個数は

$$m(2) = 2(n-2) = 2n-4 \quad (5)$$



$d \rightarrow \frac{3}{2} + 0$ のとき、 $0 \leq y \leq n + \frac{1}{2} - d$ の右辺は限りなく $n-1$ に近づく ($n-1$ の値は取れない) から

$$m(d) = 1(n-2) = n-2$$

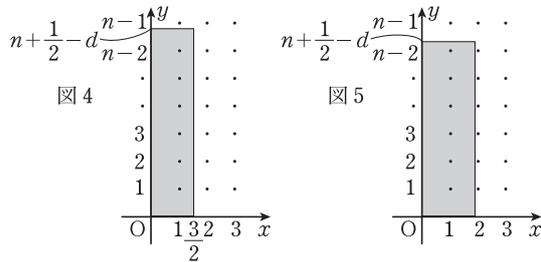
$d \rightarrow 2 - 0$ のとき、 $0 \leq x \leq d$ の右辺は限りなく 2 に近づく (2 の値は取れない) から

$$m(d) = 1(n-2) = n-2$$

4 埼玉医科大学・前期

以上より

$$\lim_{d \rightarrow \frac{3}{2}+0} m(d) = \lim_{d \rightarrow 2-0} m(d) = n - 2 \quad (1)$$



(2) $k \leq d \leq k + \frac{1}{2}$ のとき

$n - k \leq n + \frac{1}{2} - d \leq n + \frac{1}{2} - k$ であるから, $0 \leq x \leq k$, $0 \leq y \leq n - k$ をみたす自然数の組 (x, y) の個数は

$$m(d) = k(n - k) = nk - k^2 \quad (4)$$

$k + \frac{1}{2} < d < k + 1$ のとき

$n - k - \frac{1}{2} < n + \frac{1}{2} - d < n - k$ であるから, $0 \leq x \leq k$, $0 \leq y \leq n - k - 1$ をみたす自然数の組 (x, y) の個数は

$$m(d) = k(n - k - 1) = nk - k^2 - k \quad (8)$$

(3) $n = 17$ のとき, (2) を利用する. k を 16 以下の自然数とする.

(ア) $k \leq d \leq k + \frac{1}{2}$ のとき

$$m(d) = 17k - k^2 = -\left(k - \frac{17}{2}\right)^2 + \frac{289}{4}$$

$k = 8$ または 9 のとき最大値 72 をとる.

(イ) $k + \frac{1}{2} < d < k + 1$ のとき

$$m(d) = 17k - k^2 - k = -(k - 8)^2 + 64$$

$k = 8$ のとき最大値 64 をとる.

(ウ) $d = 17$ のとき $m(17) = 0$

以上より, $m(d)$ の最大値は 72 である.

4 **数学A** 【独立試行・反復試行の確率】 **標準**

▶解答 (1) 4枚のコインを同時に投げる試行で, 表が k 枚出る確率を p_k とする. $p_k = \frac{{}_4C_k}{2^4}$ である. 1回の試行で表が出るコインの枚数が2枚以上になる確率は

$$\begin{aligned} p_2 + p_3 + p_4 &= \frac{1}{2^4}({}_4C_2 + {}_4C_3 + {}_4C_4) \\ &= \frac{1}{2^4}(6 + 4 + 1) = \frac{11}{16} \end{aligned}$$

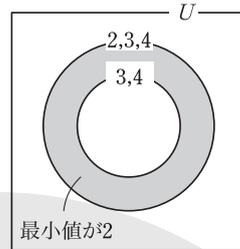
よって, 4回のすべてで表が出るコインの枚数が2枚以上になる確率は $\left(\frac{11}{16}\right)^4$

(2) 4回とも表が2枚か3枚か4枚出る事象を A とし, このうち表が2枚出ない(3枚か4枚出る)事象を B とする. (1)の結果より

$$P(A) = \left(\frac{11}{16}\right)^4, P(B) = (p_3 + p_4)^4 = \left(\frac{5}{16}\right)^4$$

4回の中で表が出るコインの枚数の最小値が2である確率は

$$\begin{aligned} P(A) - P(B) &= \left(\frac{11}{16}\right)^4 - \left(\frac{5}{16}\right)^4 = \frac{11^4 - 5^4}{16^4} \\ &= \frac{(11^2 + 5^2)(11^2 - 5^2)}{2^{16}} = \frac{146 \cdot 96}{2^{16}} \\ &= \frac{2 \cdot 73 \cdot 2^5 \cdot 3}{2^{16}} = \frac{219}{1024} \end{aligned}$$



(3) 事象 A のうちで, 表が4枚出ない(2枚か3枚出る)事象を C とすると

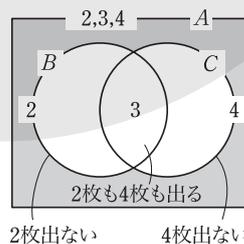
$$P(C) = (p_2 + p_3)^4 = \left(\frac{10}{16}\right)^4$$

$P(B \cap C)$ は, 4回とも表が2枚も4枚も出ない(3枚出る)確率であるから

$$P(B \cap C) = (p_3)^4 = \left(\frac{4}{16}\right)^4$$

よって, 求める確率は

$$\begin{aligned} P(A) - P(B \cup C) &= P(A) - \{P(B) + P(C) - P(B \cap C)\} \\ &= \left(\frac{11}{16}\right)^4 - \left\{\left(\frac{5}{16}\right)^4 + \left(\frac{10}{16}\right)^4 - \left(\frac{4}{16}\right)^4\right\} \\ &= \frac{1}{16^4} \{(11^4 - 10^4) - (5^4 - 4^4)\} \\ &= \frac{1}{2^{16}} \{(11^2 + 10^2)(11^2 - 10^2) - (5^2 + 4^2)(5^2 - 4^2)\} \\ &= \frac{1}{2^{16}} (221 \cdot 21 - 41 \cdot 9) = \frac{4272}{2^{16}} = \frac{267}{4096} \end{aligned}$$



要の分析 構成は例年通りである. **2** の積分計算は丁寧な誘導が付いている. **3** の格子点の問題も (1), (2) をヒントとして (3) へ誘導がある. **4** の最大値・最小値の確率は, 一度は演習したことがあるだろうから, しっかりと得点したい.
(有山, 染矢, 安田亨)